

**SEIKO**

2014年3月期 中間報告書  
2013年4月1日～2013年9月30日

# Report



株主の皆さまにおかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。  
ここに2014年3月期の中間報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。  
当社グループは当連結会計年度を初年度とする「第5次中期経営計画」が始動し、目標達成に向けて遂行中であります。

グループの基盤事業であるウオッチ事業では、高級品「グランドセイコー」をはじめ幅広い価格帯で売上を伸ばしました。販売が好調なGPSソーラーウオッチ「セイコー アストロン」につきましては、今後さらにグローバル戦略を加速してまいります。また、伸長市場のファッション・スポーツウオッチ分野を強化すべく、シェア拡大に向け、グループ内の関連事業を統合したセイコーネクステージ株式会社の営業を7月より開始いたしました。

電子デバイス事業では、車載向け半導体が好調に推移した他、新興国向けのインクジェットプリントヘッドやスマートフォン向け電池も堅調で、着実に利益を確保することができました。

また、システムソリューション事業につきましては、第3の支柱事業に育てるべく、4月よりセイコーソリューションズ株式会社が営業を開始し、セイコーインスツル株式会社が持つ「無線」「端末」「決済センターサービス」と合わせ、一つの事業セグメントとして、ソリューションビジネスを推進しております。

一方、8月10日から開催されたIAAF世界陸上2013モスクワでは、当社がオフィシャルタイマーを担当いたしました。正確な計時に加え、フルカラーLED搭載の新型フィールドイベントボードを導入し、セイコーブランドを大いにアピールいたしました。今後とも、ブランドイメージ向上に向け、スポーツを軸としたブランディング活動を一層強化してまいります。

以上のように「第5次中期経営計画」の基本戦略・課題への取り組みをすすめて、事業収益の最大化を目指してまいります。

株主の皆さまには、今後も一層のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくごお願い申し上げます。  
2013年12月



代表取締役会長 兼 グループ CEO  
**服部 真二**



代表取締役社長  
**中村 吉伸**

### ■ 2014年3月期第2四半期の取り組みと成果

当第2四半期連結累計期間(2013年4月1日～9月30日)におけるわが国の経済は、緊急経済対策効果による公共投資増、株高や消費者マインドの回復による個人消費の持ち直しや円安を追い風にした輸出回復が見られました。世界経済は、米国で自動車販売が好調さを保つなど個人消費は底堅い動きを示していますが、中国が潜在成長率を徐々に切り下げるなど、アジア経済は緩やかな成長にとどまる見通しです。一方、欧州では英国、ドイツでGDPが前期比でプラスに転じ、底打ちの兆しが見えてきました。

当社は「社会に信頼される会社であること」を引き続きグループ経営の基本理念とし、新たに当連結会計年度を初年度とする第5次中期経営計画を策定しました。当中期経営計画においては、「事業収益の最大化に向けてウオッチ事業を中核に事業ポートフォリオを再構築するとともに、経営基盤の質的強化を実現する」を基本方針としております。

当社の当第2四半期連結累計期間の連結売上高は、前年度の第4四半期に行った科学機器事業の売却の影響があったものの、前年同期より19億円増加し、1,465億円となりました。事業別では、ウオッチ事業は国内・海外で順調に売上を伸ばし、電子デバイス事業でも半導体の受注が回復しました。一方で、システムソリューション事業は新製品開発の遅れなどにより伸び悩みました。連結全体で国内売上高は682億円(前年同期比8.6%減)、海外売上高は782億円(同11.9%増)となり、海外売上高割合は53.4%(前年同期は48.4%)となりました。利益面では、営業利益はウオッチ事業を中心に大きく伸び、前年同期を25億円上回る86億円となりました。

また、営業外収支が支払利息の圧縮などで改善し、経常利益は前年同期を30億円上回る67億円となりました。タイにおける洪水被害に関わる受取保険金および関係会社株式の売却による投資有価証券売却益など、合計で56億円を特別利益に計上する一方、賃借契約損失引当金繰入額6億円を特別損失に計上しました。これらにより法人税等控除後の四半期純利益は96億円(前年同期は四半期純損失10億円)となりました。

8月にオフィシャルタイマーを担当したIAAF世界陸上2013モスクワでは、新型のスターティングブロックやLED搭載のフィールドイベントボードを新たに導入し、大会の盛り上がりにも貢献することができました。

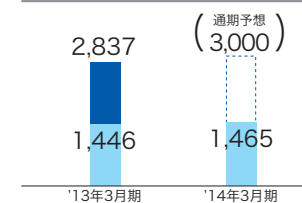
### ■ 通期の見通し

グローバルマーケットにおける電子デバイス事業の先行き不透明感は依然として強く、第3四半期以降、ウオッチ事業は前回予想より売上、営業利益ともに伸ばすものの、電子デバイス事業などは前回予想を下回る売上見通しとなりました。以上より、通期の業績見通しを売上高3,000億円(前年比5.7%増)、営業利益130億円(前年比135.4%増)、経常利益90億円(前年比177.5%増)、当期純利益110億円(前年比99.0%増)といたしました。

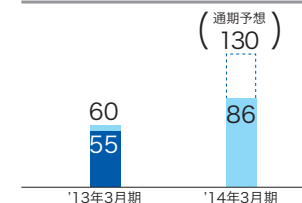
### 財務ハイライト

■ 第2四半期(累計) ■ 通期 □ 通期予想

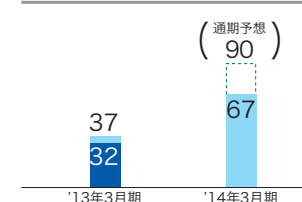
売上高 (億円)



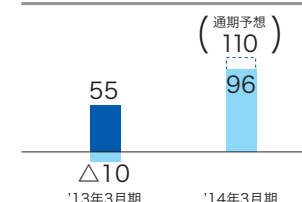
営業利益 (億円)



経常利益 (億円)



四半期(当期)純利益 (億円)





## ウォッチ事業

売上高 **704** 億円

おもな製品 ウォッチ、ウォッチムーブメント

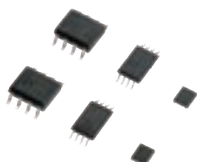
ウォッチ事業の売上高は、前年同期比126億円増加の704億円（前年同期比21.8%増）となり、売上高の増加にともなって営業利益は77億円（同23億円増）となりました。国内では、高価格帯商品である「グランドセイコー」「クレドール」をはじめ、幅広い価格帯で売上を伸ばしました。2012年9月に投入した世界初で唯一のGPSソーラーウォッチ「アストロン」からセイコー腕時計100周年を象徴するモデルとして創業者の理念を刻印した「服部金太郎特別限定モデル」を発売し、これら新製品が牽引するかたちで「アストロン」も順調に売上を伸ばしております。また、高級品3ブランド（グランドセイコー、クレドール、ガランテ）を戦略的に展開する「セイコープレミアムウォッチサロン」を当期に入り新たに4店オープンし、合計26店舗（2013年11月現在）の展開に拡大するなど差別化戦略にも引き続き力を入れております。海外では、米国で大手チェーンやデパート向け売上が好調に推移し、欧州では英国、フランス、ドイツなどで売上を伸ばしました。アジアでは中国で売上を前年同期より落としましたが、台湾などで売上を伸ばしました。円安効果の影響もあって、円貨換算後の売上はアメリカ、欧州、アジアそれぞれの地域で前年同期を大きく上回っております。ウォッチムーブメント販売は円安の進行により価格競争が激しくなる中、高付加価値商品の欧米大手顧客向けは順調に推移したものの、新興市場向けの標準品が伸び悩みました。



セイコー腕時計100周年記念 服部金太郎特別限定モデル



グランドセイコー



半導体製品



インクジェットプリントヘッド

## 電子デバイス事業

売上高 **469** 億円

おもな製品 半導体、水晶振動子、電池・材料、プリンタ、ハードディスクコンポーネント、カメラ用シャッター

電子デバイス事業は売上高469億円、営業利益14億円となりました。分野別には、半導体は車載向けやスマートフォン向け製品等を中心に受注が伸び、電池もスマートフォン向けの売上が好調に推移しました。プリンタは新興国向け建材市場を中心に需要が拡大しております。ハードディスクコンポーネントもタイの洪水被害の影響を受けた前年同期より売上が回復しました。

## システムソリューション事業

売上高 **104** 億円

おもな製品 データサービス、情報ネットワークシステム、電子辞書

システムソリューション事業は売上高104億円、営業利益80百万円となりました。決済端末関連製品の売上は新製品を中心に伸びましたが、モバイル関連は製品開発の遅れなどにより売上を落としております。



タクシーメーター連動型 カード決済端末



通信プロトコルコンバータ USTシリーズ

## その他

売上高 **241** 億円

おもな製品 クロック、眼鏡レンズ・フレーム、高級宝飾・服飾・雑貨品、設備時計他

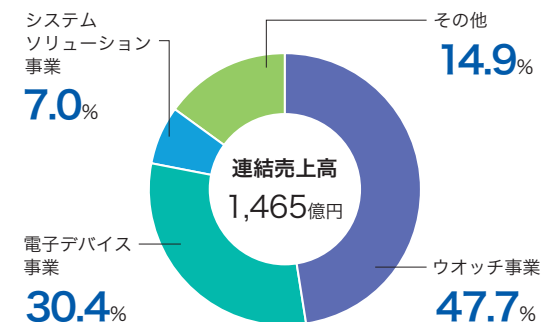
その他に含まれる事業では、眼鏡事業、クロック事業は円安の影響により売上は増加し、また和光事業も本館や法人営業が好調に推移し、商品別ではウォッチ、ジュエリーを中心に売上を伸ばしました。一方、円安によるクロック事業のコスト増などにより営業損失1億円となっております。



セイコー プレザージュ

### 事業別売上高構成比

(2014年3月期第2四半期連結累計期間)



※上記の比率は、各事業間の内部売上高又は振替高調整後の数値に基づき算出しております。

### セグメントの変更について

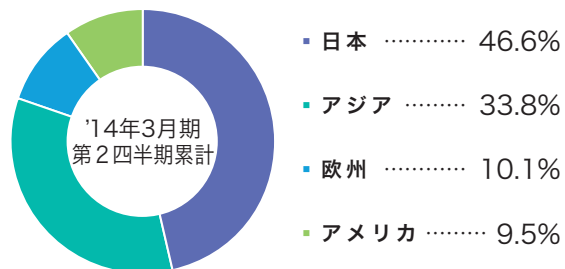
従来の電子部品等事業を半導体、水晶振動子、電池・材料、プリンタ、ハードディスクコンポーネントおよびカメラ用シャッター等を取り扱う電子デバイス事業と、データサービス、情報ネットワークシステム、電子辞書等を取り扱うシステムソリューション事業に区分しております。ウォッチ事業、電子デバイス事業およびシステムソリューション事業を報告セグメントとして開示し、クロック事業、眼鏡事業等は「その他」として一括して区分しております。

四半期連結貸借対照表

(億円)

科目	当第2四半期末 2013.9.30現在	前第2四半期末 2012.9.30現在	前期末 2013.3.31現在
<b>【資産の部】</b>			
流動資産	1,590	1,761	1,568
固定資産	2,059	1,962	1,984
<b>資産合計</b>	<b>3,649</b>	<b>3,723</b>	<b>3,553</b>
<b>【負債の部】</b>			
流動負債	1,644	2,260	1,948
固定負債	1,430	1,149	1,196
<b>負債合計</b>	<b>3,074</b>	<b>3,409</b>	<b>3,145</b>
<b>【純資産の部】</b>			
純資産合計	574	313	408
<b>負債純資産合計</b>	<b>3,649</b>	<b>3,723</b>	<b>3,553</b>

地域別売上高構成比



ウオッチ事業で、円安効果の影響もあり円貨換算後の売上がアメリカ・欧州・アジアそれぞれの地域で前年同期を大きく上回るなど、連結全体では、海外売上高比率が前年同期比5%増の53.4%となりました。

四半期連結損益計算書

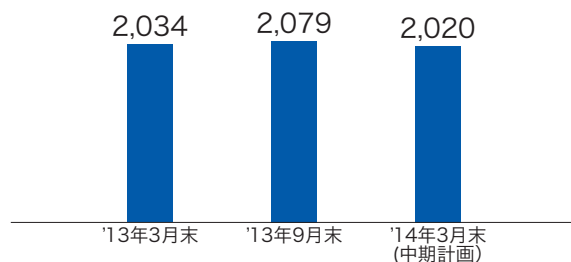
(億円)

科目	当第2四半期 (累計) 2013.4.1から 2013.9.30まで	前第2四半期 (累計) 2012.4.1から 2012.9.30まで	前期 2012.4.1から 2013.3.31まで
売上高	1,465	1,446	2,837
売上総利益	499	448	870
営業利益	86	60	55
経常利益	67	37	32
特別損益	49	△25	48
税金等調整前 四半期純利益	117	11	80
<b>四半期純利益</b>	<b>96</b>	<b>△10</b>	<b>55</b>

有利子負債

(億円)

有利子負債計



前期末に比べ長短借入金が45億円増加し、長短借入みにリース債務を加えた有利子負債の合計は2,079億円となりました。2014年3月期末には中期経営計画目標値の2,020億円を目指しております。

特集

CELEBRATING 100 YEARS OF SEIKO WATCHMAKING

次の100年が動きだす。



# ニッポンの腕時計。 セイコーの100年



「常に時代の一步先を行く」創業者 服部金太郎のこの信念のもと、  
セイコーが国産初の腕時計を発売してから100年が経ちます。  
革新的な商品をつくり続けてきたセイコーの腕時計の歴史をご紹介します。

## 「常に時代の一步先を行く」という精神を心に刻みながら

セイコーブランドを世界に知らしめたのは、1969年に発売した世界初のクォーツ式腕時計「クォーツ アストロン」でした。そして2012年、セイコーはグローバル時代に応える腕時計、世界初のGPSソーラーウォッチ「セイコー アストロン」を発売しました。「セイコー アストロン」は、1969年に世に送り出したクォーツ式腕時計に、ソーラーとGPSの最新技術を組み合わせた、まさにセイコーがつくり上げてきた腕時計の集大成といえます。国産初の腕時計によって踏みだしたセイコーの第一歩は日本の腕時計の歴史を方向づけました。これからも「常に時代の一步先を行く」という精神を心に刻み、次の100年に向けた腕時計づくりを進めてまいります。

1913年

国産初の腕時計  
「ローレル」誕生。

懐中時計が主流の時代、「いずれは腕時計が主流になる」と考えた創業者 服部金太郎が腕時計の国産化に挑み、誕生した。



1964年  
国産初の  
クロノグラフ  
発売。



1969年

世界初の  
クォーツ式腕時計  
「クォーツ アストロン」  
発売。

クォーツ化により、それまでの機械式腕時計の常識を覆す高精度を実現。世界中を驚かせ、時計史に残る偉業といわれる。



1984年  
世界初の  
コンピュータ付き腕時計  
「腕コン」発売。



1988年  
世界初の自動巻発電  
クォーツウォッチ  
(のちのキネティック) 発売。



2006年  
世界初の電子インクを  
応用したウォッチ  
「セイコー スペクトラム」発売。



2010年  
世界初の  
アクティブマトリクス  
EPDウォッチ発売。



2013年  
セイコーの  
腕時計  
100周年

次の100年動きだす。



1913

1924

1960

1964

1967

1969

1973

1982

1984

1988

1999

2006

2010

2012

2013

1924年  
時計類の名称に  
"SEIKO"を  
使いはじめる。

1967年  
スイス・ニューシャテルの  
天文台コンクールで  
上位入賞。

1982年  
世界初のテレビウォッチ発売。



1999年  
世界唯一の駆動機構  
「スプリングドライブ」発売。

ぜんまいを動力源としながらクォーツの高精度を兼ね備えた、機械式、クォーツ式に次ぐセイコー独自の駆動機構。



2012年  
世界初のGPSソーラーウォッチ  
「セイコー アストロン」発売。

地球上のあらゆる場所で、すばやく正確な現在地、現地時刻を得ることができる。発売以来世界で高い評価を得るセイコーの腕時計の集大成。





## IAAF 世界陸上 2013 モスクワ オフィシャルタイマーを担当



2013年8月10日から18日の9日間にわたって開催されたIAAF世界陸上2013モスクワで、セイコーはオフィシャルタイマーを務めました。

セイコーの計時システムとタイミングチームがタイムや距離の計測を行い、正確な計時で大会をサポートしました。また、今回導入した新型のフィールドイベントボードは、視認性に優れたフルカラーLEDパネルを搭載し、フィールド競技の進行状況や選手紹介などの情報をいち早く観客に伝えました。

セイコーパビリオンでは、ウォッチ・クロックの販売コーナーや、セイコーの計時システムと一緒に写真撮影ができるスペースを設けて、多くの方にご来場いただきました。

## 企画展「セイコーの腕時計 100年」 セイコーミュージアムで開催



2013年4月16日からセイコーミュージアムで企画展「セイコーの腕時計 100年」を開催しています。

セイコーミュージアムは今年4月にリニューアル周年を迎え、奇しくも今年、セイコーが国産初の腕時計「ローレル」を発売してから100年目に当たることから、これを記念して、企画展を開催することとなりました。既に多くの方にご来場いただき、お楽しみいただいています。

現在は、第一期「時代の一步先」として、数々の日本初・世界初を生み出してきた歴史を代表的な製品を通して紹介しています。特別展「時のカタチ 間のカタチ」も併せて開催しており、セイコーのデザイナーが創った未来の時計のアイデアもご覧いただけます。

## ■ 会社情報

### 会社概要

社名	セイコーホールディングス株式会社
創業	1881年(明治14年)
資本金	100億円
従業員数	115名(単体) 14,349名(連結)
本店所在地	〒104-8129 東京都中央区銀座四丁目5番11号
本社所在地	〒105-8505 東京都港区虎ノ門二丁目8番10号 虎ノ門15森ビル 電話：03-6739-3111(代表)
WEBサイト	<a href="http://www.seiko.co.jp">http://www.seiko.co.jp</a>

### 役員

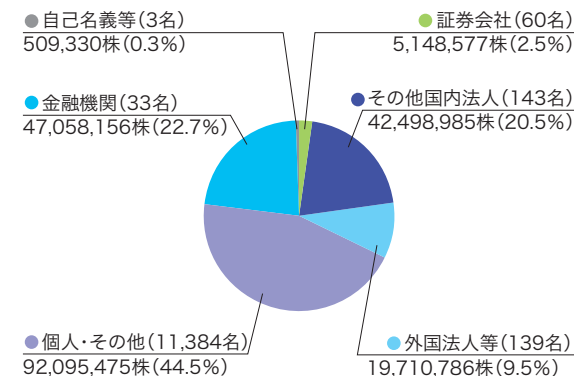
代表取締役会長 兼 グループCEO	服部 真二
代表取締役社長	中村 吉伸
常務取締役	内藤 昭男
取締役	梅本 宏彦
取締役	高橋 修司
取締役	大熊 右泰
取締役	村上 斉
取締役	石井 俊太郎
取締役	鎌田 國雄
取締役	土居 聡
取締役	原田 明夫
常勤監査役	鈴木 政利
常勤監査役	三上 誠一
監査役	森田 富治郎
監査役	山内 悦嗣
監査役	青木 芳郎

## ■ 株式情報

### 株式の状況

発行可能株式総数	746,000,000株
発行済株式の総数	207,021,309株
株主数	11,762名

### 株式所有者別の状況



※自己名義等は、自己名義株式(251,921株)および当社関係会社が所有する株式です。

### 株主メモ

証券コード	8050
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部
決算基準日	3月31日
期末配当金の基準日	3月31日 ※中間配当を行う場合は、9月30日が確定日となります。
株主名簿管理人および特別口座管理機関	みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
郵送物送付先 お問い合わせ先	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 電話：0120-288-324(フリーダイヤル)
公告の方法	電子公告 ただし、やむを得ない場合は日本経済新聞に掲載します。

## ■ 主な国内連結子会社

セイコーウォッチ株式会社

セイコーNPC株式会社

株式会社 和光

セイコーインスツル株式会社

セイコーソリューションズ株式会社

セイコータイムシステム株式会社

セイコーネクステージ株式会社

セイコークロック株式会社

セイコープレジジョン株式会社

セイコーオプティカルプロダクツ株式会社

## ■ グローバルネットワーク (当社を含む連結会社数)



セイコーホールディングス株式会社

〒105-8505 東京都港区虎ノ門二丁目8番10号

電話 03-6739-3111(代表)

